



2013年 7月20日
第 25 号

岡山大学工学部 同窓会報

編集・発行 / 岡山大学工学部同窓会事務局
〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学新技術研究センター内
TEL・FAX (086) 255-8311
メールアドレス ofst@cc.okayama-u.ac.jp
ホームページ(URL) <http://www.eng-okayama-u.ac.jp/alumni/index.html>
印刷所 / 小野高速印刷(株)
〒670-0933 姫路市平野町62 ☎ 079(281)8837

TOPICS

挨拶 (工学部長、代表幹事、退職者)	1～
学科近況、職場紹介	9～
ホームカミングディに向けて	13～
新任・昇任・退職等教員紹介	17
受賞研究、学位取得者名簿	18～
寄附者一覧	22
会計報告	23
同窓会事務局より	24

「活動の活性化を図っています」

工学部長 谷口 秀夫



平成24年度の活動状況について、工学部の組織目標評価報告書をもとに紹介します。この組織目標評価報告書とは、学長が中期目標・中期計画に基づく岡山大学組織目標を毎年度策定し、この内容に基づいて工

学部が作成したものです。過去の内容は、以下のURLに公開されています。

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/tqac/tenken/jiko/report.html>

教育領域としては、平成23年度から実施した改組内容の改善、学部大学院の連携、Q-cumシステムの利用など、年度当初の目標に順じて実施しました。また、目標として記載した項目以外に、ミャンマーとの連携を関連大学と検討、岡山県工学教育協議会を本学部で主催、読売新聞と朝日新聞に本学部の特徴を広告、を行いました。なお、目標とする客観的指標については、志願倍率（学部入試倍率：前期日程）の目標2.2倍を達成し、後期日程については、昨年度（5.0倍）を上回る6.5倍にできました。

研究領域としては、産学連携推進委員会の開催、研究成果（論文など）の公表（工学部研究年報）、科研申請状況の把握と申請の依頼など、年度当初の目標に順じて実施しました。なお、目標とする客観的指標については、科研申請率は99%であり目標（100%）を達成できませんでした。学部資金獲得は目標（前年度比5%増）を達成できたと考えています。

社会貢献領域としては、サウジアラビアとの協力、震災復興・日本再生支援事業での鳥取大学との連携、地域の小中学生向けの工学実験教室など、年度当初の目標に順じて実施しました。

管理運営領域としては、会議関連の効率化、コンプライアンス研修会などの実施、准教授会の開催など、年度当初の目標に順じて実施しました。また、目標として記載した項目以外に、工学分野のミッションの明確化について、文部科学省と意見交換を行いました。具体的には、説明資料を10月に文部科学省に提出し、追加説明資料を作成して文部科学省との意見交換会（2月5日）において説明し、意見交換会（2月5日）での課題について資料を作成し2月13日に提出しました。

なお、ご存知と思いますが、岡山大学Alumni（全学同窓会）の設立を準備しています。岡山大学Alumni（全学同窓会）のミッションは、

1. 各地域に支部組織を作り、学部を超えた交流、大学と連携した全国的ネットワークを作る。
2. 地域と国の未来を担う指導的人材育成という使命を大学と分かち持つ。
3. 岡山大学とAlumniの人的ネットワークを世界に拡大する。
4. 在校生を含めたAlumniの交流の場を充実させる。

です。設立趣意書などは、URL（<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~dousou/>）に公開されています。皆様のご協力と積極的な参加をお願いいたします。

ご挨拶

工学部同窓会代表 酒井 貴志 (昭和45年3月、合成化学科卒)



工学部同窓会会員の皆様には平素より同窓会活動へのご支援を戴き篤くお礼申し上げます。

工学部同窓会は、規約にある通り、工学部（学部、大学院）在学生、卒業生

と現旧教員が正会員となっています。ただし、会費納付は在学生、卒業生からとしています。したがって、同窓会の活動が、同窓生だけでなく、教員の皆様のご理解とご支援も含めたものであります様に望んでいます。

工学部同窓会の活動としましては、主として、①各学科同窓会の支援、②5年ごとの会員名簿の発行、③年1回の会報発行、④5年ごとの工学部記念行事の支援、⑤工学部同窓会関東支部への支援、⑥同窓会ホームページの管理等があげられます。これらの活動は、各学科同窓会から選出された学内、学外幹事による幹事会を通して行なわれ、事務処理は岡山工学振興会に委託しております。

また、去年は10月20日（土）に行われました岡山大学ホームカミングデイ（HCD）に合わせ、同窓会総会と懇親会を行い、多数のご参加を戴きました。本会誌に報告を掲載しています。今年は、10月19日（土）にHCDが予定されていますのでぜひともご参加いただき、研究室の見学や相互の旧交を温める機会として戴きたいと思えます。

この間、岡山大学同窓会においては従来の各学部同窓会の連合体組織を刷新して、新たに岡山大学全学同窓会を立ち上げる議論が活発に行われてきました。ここでは、会員は同窓生（長期・短期留学生を含む）だけでなく岡山大学に

係る全ての教職員、研究者（非常勤、ポスドクの方々を含む）が会費を納める正会員となる方向で検討されています。また、活動としては、国内外に支部をおき、学生の留学や就職支援等を全学的に支援するなどです。今秋の岡山大学HCDに合わせて発足の予定で準備されています。

工学部同窓会の会員もすでに多数の退職者の方々がおられ、続いているいろいろな仕事や、ボランティア活動等の社会貢献で活動されています。今後、同窓会が在学生、現役者だけでなく、退職後の方々の情報交換の場となることも考えていきたいと思っています。積極的なご提案をお待ちしています。

今回も多数の御寄附を戴きました。同窓会の活性化の為の大きな支えとなります。

末尾になっていますが、ご芳名を記して感謝申し上げます。

最後に、皆様のますますのご活躍を期待するとともに、同窓会へのご指導、ご支援もよろしくお願いいたします。



退職にあたって

定年退職にあたって

電気通信系学科 奈良 重俊

私は1990年10月に岡山大学・工学部・電気電子工学科に助教授として赴任しました。その在任期間はわずか4年半であり、1995年4月からは広島大学・総合科学部・教授に転任し、さらに広島大学にもわずか4年半の在任期間ののち、1999年10月に再び岡山大学・工学部・電気電子工学科・教授として戻ってまいりました。その後の異動はありませんでしたが、2005年からは大学の組織改革に伴い大学院が本籍となり、岡山大学・大学院自然科学研究科・産業創成工学専攻・電気電子機能開発学講座・教授という名称・所属のもとで勤務を継続、2013年3月をもって定年退職となりました。助教授として4年半、教授として13年半、という期間岡山大学にご厄介になったことになりません。同窓会から会報に何か文章を書いてほしいとの要請がありましたが拙文を露呈することに憚りがあり、躊躇っていましたがどうしてもということで、上の在任期間における思い出を多少とも記すことでお茶を濁すこととなりますが、あらかじめそれをお詫びいたします。

自分で言うのも奇異なことですが、私はかなり変わった経歴を積み上げながら研究を行ってきました。学部時代は北海道大学・工学部・電子工学科で、修士課程・博士課程は京都大学・理学研究科・物理学第一専攻・物性理論研究室にて、それ以後は、湯川（記念財団）奨学生、学術振興会奨励研究員、ポストドク（当時の西ドイツに二年間滞在）、三菱電機（株）中央研究所・研究員、国家プロジェクト（今のJSTによるERATOに当たる）研究員、官民合同プロジェクト（ATRという名称で今も継続しているはず）研究員、岡山大学・工学部、広島大学・総合科学部、再度岡山大学・工学部、岡山大学・自然科学研究科、など様々な所属で様々な課題について研究を行ってきました。研究課題の大きな流れとしては、物性理論・統計力学 => 非線形・非平衡の物理学 => 新奇デバイス理工学 => 神経理工学 => 神経科学・脳科学、といったふうには書けばよいでしょう

か。外から見ますとたいへんに異なった分野で研究をしてきたように見えますが、本人は「統一的な自然科学的物質観を得たい」「自分なりの自然科学的生命観・生体観を得たい」というかなり自然哲学的な動機に駆られて研究を重ねてきた、というふうに感じております。ただそれを明瞭に表出した機会は少なく、その場その場での生き残りの策を交えて研究をしたという不純な？ものも多く含まれていることは否定できません。私の長年の畏友である池田研介君（現立命館大学）にはそんな私を「奈良さんは（隠れキリシタンならぬ）隠れ物理をやっているんや」とみごとに喝破されました。その意味では、そうした部分を垣間見ながらあまり厳しく追及をせず私の研究活動を寛容してくださった私の周囲におられた多くの方々に、私が研究者として定年まで過ごすことができましたことに関して心からお礼を申し上げたいと思います。

ということで、最初に助教授として赴任したときに所属した教育・研究分野は「知能デバイス」という名称で教授としては東辻浩夫先生が在任しておられました。私の言う流れからいうと「新奇デバイス理工学」のステージであり、研究も発展しましたが、研究室では学生（卒業研究生）・大学院生と年齢がそう離れてはいないことと、単身赴任という立場や、その頃ある私的な屈託を抱えていたこともあって、みんなと飲んだり遊んだり騒いだりといった開放的時間を過ごすことでずいぶんと助けられました。それらは貴重な思い出として生涯残るものです。広島大学に教授として転任した後、公私にわたる様々な事情で4年半後に再び岡山大学・工学部・電気電子工学科という古巣に教授として戻ってきましたが、その頃から世界的な転換点の時代を迎え、大学の改変も激しく、身近に起きた最も大きな出来事は国立大学の独立法人化であったように思います。それをもとに様々な組織改変が誘発され、大学院大学化、学科再編、教員評価体制創設、などが矢継ぎ早に起きました。その過程での様々な出来事が公私ともども交えて鮮やかに蘇りますけれどもそれを記すことは割愛したいと思います。

岡大に戻ってからも私的には、学生・院生諸君と助教時代のように交流する状況は変わらず、各世代の諸君に関して一人々々溢れるような思い出が記憶に残っています。教え子の諸君の結婚式に出てその思い出を披露する機会も、もう15回を超えたと思います。20年以上にわたる教員在任期間中において、学生・院生諸君の気質も少しずつ変化をしているのが印象的です。社会や産業の大きなシステム的変化・変動（いわゆるグローバルスタンダード化による大きな津波）と、幼年期・児童期から思春期を経て高校生に至る成長期における日本の教育システムとの相克がその根底にあるのではないかと私自身は推測していますが、なにはともあれ、若いひとたちと彼らの成長の一時期を共にしてその成長を見守り、また多少の手助けをすることができたことは私の人生にとってかけがえのないすばらしい経験となり今私の胸中に残っています。

最後になりましたが、研究・教育に携わってきたわが人生にとって様々な面において貴重な体験を積みかせてくださった諸先生方、スタッフのかた方、事務のかた方、学生・院生諸君に誠心誠意のお礼を申し上げ、みなさま方の今後のご健勝にてのご活躍を祈念いたしますことを申し上げ、つたない筆を置くことといたします。

共に学んだ学生諸君

情報系学科 金谷 健一



私は2001年4月に群馬大学より赴任して12年間を岡山大学で過ごしました。この間、自分の専門であるコンピュータビジョンの新しい理論や応用を考えては、卒業論文、修士論文、博士論文のテーマとして学生諸君と共に実験し、検証してきたのは楽しい思い出です。こうして列記すると皆の顔が浮かんできます。

- 2001年度卒業論文
高橋宗成、井下潤一、小山雅彦、坪内貴之、末松研司、山根純一、高橋茂雄、讓田賢治
- 2002年度卒業論文
神澤省吾、舟木華代、福島明也、木山淳、森

- 田啓、塩見一晃、高谷俊也、田仁千晴、原田佐奈恵、村田正和、前田牧子
- 2002年度修士論文
中谷拓史、中塚庸一郎
- 2003年度卒業論文
池田直樹、伊藤達史、浅原清太郎、板谷恵里子、山本千絵、坂口佳彦、馬場源太
- 2003年度修士論文
高橋茂雄、高橋宗成、坪内貴之、讓田賢治
- 2004年度卒業論文
柳井康徳、茶園亮、牛草研二、酒井祐貴、岡部祥子、金子直也、猪木摩耶子、木下穰次、山田純平、森昭延、大隅一平
- 2004年度修士論文
木山淳、村田正和
- 2005年度卒業論文
寶満剛、上野真司、松島一起、春名健太郎、坂本雅俊、平博行
- 2005年度修士論文
浅原清太郎、池田直樹、野村祐介、馬場源太
- 2005年度博士論文
中辻敦忠
- 2006年度卒業論文
藤原由英、小寺和夏奈、宮内理衣、中川裕介、荻田章博、ユ・ビョンジン
- 2006年度修士論文
森昭延、酒井祐貴、山田純平
- 2007年度卒業論文
坂東宏美、矢野直樹、田村直裕、田中勇桂、中井亮太、表達也
- 2007年度修士論文
平博行、松島一起、坂本雅俊
- 2007年度博士論文
Hanno Ackermann
- 2008年度卒業論文
高田潤、上野和紀、岩本祐輝、イ・ヒョンジュン、原裕貴、松本拓也
- 2008年度修士論文
中川裕介、正富達也
- 2009年度卒業論文
友次由理亜、田内貴士、井上直哉、伊藤早央里、結城剛、中村遼平
- 2009年度修士論文
矢野直樹、田中勇桂、田村直裕
- 2010年度卒業論文

横田健太、有本尚矢、本田卓士、丸茂哲平、
徐睿源 (ソ・イエウォン)

- 2010年度修士論文
岩元祐輝、原裕貴、森安亮太
- 2011年度卒業論文
野田祐美、山本歩夢、渡部隆太、木下大河、
荒金悠太
- 2011年度修士論文
結城剛、中村遼平
- 2012年度卒業論文
三村健人、松尾彰悟、高田航輔、宮崎麻由、
竹林優一
- 2012年度修士論文
横田健太、本田卓士、有本尚矢、丸茂哲平
卒業・終了後みな各方面で活躍されているよう
で、うれしい限りです。ますますのご発展を祈願
しています。

退職にあたって—戦略としての計算論—

山崎 進

以前、同窓会に寄稿を依頼されました時は、「コンピュータは発見されたのか発明されたのか」

という議論をし（小生の岡山大学工学部40年史「思い出と随想」への寄稿に展開されていますが）、一つの話提供をしました。今般、時代の背景や歩んできた道の帰着として退職を仕事の仕上げ時や区切りにできずに、21世紀情報分野の展開にもう少し(自己研究ながら)参画してみたいという状況にありますので、小生の近況や感慨を紹介します。一つの話提供になれば幸いです。

英国 Warwick 大学コンピュータ科学科の客員研究員を約1年経験し、人工知能国際会議 (IJCAI 1987) に「言語論」で単著発表の機会を得て、本学工学部情報工学科に着任しました (1987年7月)。以降、1970年代頃には専門書教科書として形式を整えていました「プログラム理論と人工知能」(J.McCarthyらの提唱)を基礎に、コンピュータシステム(計算論)や人工知能の基礎理論に関する研究教育を目指し、同時に英国への短期滞在を通じて意味論研究に取り組み、学科創設後の10年に参加できました。

その後、グローバル化が進み社会知見と産業

構造も大きく変わる21世紀展開を追いながら、定理の自動証明(自動推論)に関する、ささやかながら独自の結果を応用して、「対象としての知識 (objective knowledge)」(K.Popper らの考えの技術的側面)に関わる解析推論を追求することになり、テキスト内容の解析、診断、e学習に取り組み新規性を求めました。これらは、20世紀末に成熟するエージェント技術分野に包含され「後の祭り」への参加になるのでしょうか。

小生の転機は2005年頃に訪れ、コンピュータ科学を数学の一分野とするアメリカ数学会課題分類や数学者との交流に刺激を受けて、応用論理や計算論ワークショップに短編ながら単著発表を重ね、欧州コンピュータ科学者との質疑討論機会も継続しています。かくして、純粋数理科学への接近は小生では「原理的に」不可能ながら、応用数理としてのコンピュータ科学に接近できる好運に恵まれました。このことはまた、コンピュータ(計算)、記号論理(数理論理)とITが三位一体となって成熟した「情報論」の基礎として、(再帰構造を含む) Frege-Churchオントロジーを一層深く知ることにもなり、20世紀思想の21世紀への展開を垣間見たような感慨にもつながりました。

この接近の道は、昨年 (Turing Year) に引き続き、4月のトゥールーズ証明論(計算論)会議に発表のため出かけ、また「型理論」(コンピュータのプログラムやデータの型を厳格に定式化して扱い、セキュリティ技術や安全なシステム設計に適用できる理論: B.Russell のパラドックスなどを契機に成熟した体系)の発表を聴く機会に連なっています。また、小生が「知識」処理を機構的に「自動化」している(計算している)ことになっているのではないかという懐疑に到っています。

かくして、年齢的にも社会通念上も「区切り」をつけるべき時に、「継続」に粘る小生ですが、到底専門的に「分かる」ことができない宇宙論や万能細胞論の新展開時代にも遭遇でき、コンピュータ認識論すなわち計算論(「たかがコンピュータされどコンピュータである」ことがグローバル時代に一層顕著になり、人類知の重要な理論と技術の一体系になっています)上からも、「現在」が機構論(自動化技術体系、自動化をめざす思想)の一つの完成期にあるという直観に

到っています。

さすれば、小生のねらう課題は？

計算論数理を「分かり」得たと思う今は、産業への直接的な適用インパクトに不得手ながら、「戦略」の原理に取り組むべきではないかと考えています。すでに、「アクションの論理」が辞書的にまとめられ、研究論文や先駆の考え、さらには学術と産業の分野としての「ゲーム理論」や「エージェント手法」における成果も多数あります。新規研究を長編で書けるのか？自己研究自体に「戦略」（メタ戦略）はあるのか？

道は見えずらく、小生の近況はまだ「あいまい」です。しかしながら研鑽には努めたいと思っています。

少なくとも、計算論の戦略への展開が可能か否かについて「分かる」までは健康でいたいと精進する次第です。

退職にあたって

化学生命系学科 高田 潤

工学部での27年に亘る教育研究の日々を終えて退職いたしました。この間、多くの教職員の皆様にお世話になり、心より御礼申し上げます。

私は昭和61年（1986年）7月に、岡山大学工学部附属非結晶材料研究施設の三浦嘉也研究室の助教授として赴任してきました。この施設は現在の工学部21号館と改称された2階建ての建物であり、昭和48年に設置されたユニークな施設でした。私が赴任当時は、2階には三浦嘉也教授と高田が、1階には山下祐彦教授と吉尾哲夫助教授が研究室を構えていました。この頃工学部の化学系学科には、応用化学科4研究室と合成化学科4研究室がありました。三浦研究室は、主に非結晶ガラス材料を対象とした研究を、応用化学科の高橋克明教授（後に岡山大学学長）の研究室と連携して活発に進めておられました。

私は前の職場では金属材料の研究に携わっていましたが、岡山大学ではセラミックス材料を取り扱いたいと思っていましたので何を研究するかについてずいぶん悩みました。たまたま1986年にスイスIBMのベドノルツとミューラーがLa-Sr-Cu-O系で超伝導現象を発見し、世界中で大変騒がれ始めていました。そこで、私は、この系で

の状態図研究に取り掛かることにしました。状態図研究は、とても地味な研究なのでほとんどの研究者は手を染めることを避けるのですが、材料開発の海図に例えられるように非常に重要な研究と位置づけられるものです。続いて臨界温度 T_c が液体窒素温度（77K）を超えるY-Ba-Cu-O系($T_c \sim 90K$)やBi-Sr-Ca-Cu-O系($T_c \sim 80K, 110K$)で新しい超伝導相が発見され、世界中がフィーバー状態になりました。私たちは、これらの系でも状態図研究を進める中で、Bi-Sr-Ca-Cu-O系で T_c が最も高い（ $\sim 110K$ ）が高純度なサンプルを作製することが困難であったBi-2223相を、BiにPbを部分置換することによって単相サンプルの作製に幸いにも成功し、大いに注目されました。この研究の発表後、世界中で我々の研究の追試研究がされました。Bi系の超伝導の研究には小田喜一先生（後に産総研に勤務）や尾坂明義先生が加われ、学生さんとともども膨大な実験を休日返上で精力的に取り組んで頂きました。これらの超伝導研究を行っていく中で、学内外の先生方とご一緒できたのは大変ありがたく、また良い思い出でした。

昭和62年には学部改組があって、工学の化学系は応用化学科4講座、合成化学科4講座、非結晶研究施設2講座が統合されて、新たに精密応用化学科が発足しました。この改組によって、化学系学科はかなり充実しました。

平成3年2月に私は教授に昇任し、間もなく難波徳郎先生が着任されました。難波先生（現在環境工学部教授）はガラスの非結晶構造について実験と計算科学の両面から研究され、興味深い成果を次々に出して行かれました。当時難波先生も私も若かったので、学生さんと研究ばかりでなく、夜はお酒をよく飲んだことを懐かしく思い出します。また、この頃研究室の研究費が少なかったために、外部の様々な財団の研究助成に申請しましたが、その採択確率は低く、大変苦勞したことを印象的に覚えています。

その後平成12年の学部改組で学科は物質応用化学科と改称されました。私が赴任した当時おられた教授の先生方が退職された後、学科内はもとより学外からも新しい教授の先生方が着任され、若返りでリニューアルされました。無機化学系では岸本昭教授が赴任されました。私の研究室では藤井達生准教授（現教授）と中西真助教の3人で教育研究にあたりました。平成23年度には工学部の

改組があり、化学生命系学科が誕生し、現在学年進行中であるのは良くご存じの通りです。

私のその後の研究は、主に酸化鉄に関連するテーマを対象としました。吹屋ベンガラの再現、備前焼緋襷模様の材料学的研究や高周波帯域での電磁波吸収体材料研究開発を展開しました。加えて約13年前から開始していました「微生物が地下水が湧き出した場所で作るユニークな酸化鉄」の研究は、当初は遅々として進みませんでした。約8年前から急速に進展し、平成20年度からは特別教育研究経費（研究推進）を頂いて、学部横断型の異分野融合研究として顕著な成果を挙げることができました。

これまで多くの先生方や事務系職員の方々にご支援・ご協力を頂きましたことを篤く御礼申し上げます。また、約230名にのぼる研究室の卒業生の皆様や秘書の方々には、楽しい時間をご一緒させていただいたこと感謝いたします。皆様の今後のご活躍と工学部の更なる発展をお祈りいたします。

退職の時

化学生命系学科 尾坂 明義

日々精励するか怠惰に過ごすかに拘らず、時は待ってくれない。学生時代から勘定して約40年もこの津島キャンパスで過ごしたことになります。当時の面影を残すのは工学部の本館（1号館）、大昔は合成化学科棟・電気電子工学科棟であった2号館と3号館のみで、5号館は旧土木工学科棟です。このような事情を体験したものは、昨年酒井貴志先生の退職を受けて筆者が最後となりました。昔のことばかりいうのは年寄りの特権で、筆者が新設の生体機能応用工学科に助教授として当時の精密応用化学科からスライドしたときは、山田秀徳先生と妹尾先生がマネジしていた赤煉瓦棟（現15号館か）と、口の悪い第一期生たちが家畜棟と言いつつ、現自然科学研究科棟の南にかりかろうじて残っていた木造の工作棟が、実験室として利用できる状態でした。大槻主税先生（現名古屋大学）と共に直接施設部とやり取りしつつ、居住スペースや実験室内部仕様をデザインした現在の6号館が、その第一期生たちの卒業の間際になって竣工し、ほんの2～3週間でも彼らとその新築棟で過ごせたことは、幸せでした。

さて、会社と大学との異なる点の一つは、大学教員は類似の研究領域の中で数少ない同僚・先輩と極めて長い濃い時間を過ごすところでしょうか。事務方との交流も同じ。その当時の習慣で事務の皆様にはずっと「ため口」をきいて今日までできてしまいました。現在ではかなり流動性が増してはいますが、その傾向に変わりはないでしょう。その意味で筆者は幸せでありました。自分がそうであった分、周りの先輩や同僚の皆様には鬱陶しい存在であったであろうにと、恐縮しています。例えば、24歳の若さで逝ってしまった同級のH君が健在であったら、多分筆者はこうしてここにはいないぞ、と考えることもあります。研究室担当として過ごした期間、一緒にがんばってくれた学生諸君・諸嬢が現在立派に社会的に活躍してくれていること、そのなかから幾人かが博士課程に進学し学位を取ってくれたこと、また、同僚として迎えた教職員（大槻主税先生、早川 聡先生、都留寛治先生、城崎由紀先生）や留学生・博士研究員がみな優秀であり、それぞれの場所で一家を成してくれていること。これらは教員冥利に尽きます。さらには、ここも重要ですが、個人的には歴代の女子学生や女子職員が、筆者にとって極めて居心地のいい環境を作ってくれたこと。感謝の言葉もありません。

研究面では、酸化物ガラスの構造論、溶液からのセラミック材料の合成、有機-無機複合材料・ハイブリッド材料、それらの医用応用と、基本的には無機材料科学の分野に身を置いてきました。ゾル-ゲル化学の分野は特に、自分の留学先であったカリフォルニア大学（UCLA）との共同研究からスタートさせたものです。また、多くの企業との交流の中から、一つでも医療器具としての認可のための治験に進んだ材料（表面処理法）が提示できたことも、振り返ってみて、印象深いものがあります。

筆者はたくさんのご協力を得て、医用材料の化学をこの場所に新しく植えたことにはなりますが、それ自体の成長を乞い願うものではありません。もちろんそれはそれで嬉しいことには違いないですが、続く皆さんがそれぞれに新しい道を歩んで行ってくださればよいのではないのでしょうか。皆様のご健勝とご発展を心より願い上げます。

退職にあたって (研究活動への取組み)

機械システム系学科 則次 俊郎



1972年3月に岡山大学工学部生産機械工学科(自動制御研究室)の5期生として卒業し、1974年3月に同大学院工学研究科修士課程生産機械工学専攻の第2期生として修了しました。

修了と同時に、津山工業高等専門学校(以後、津山高専)機械工学科の助手に採用され、講師、助教授を経て、1986年4月に和田 力先生のお誘いにより岡山大学工学部自動制御研究室の助教授に配置換えとなりました。この間、1982年9月に花房秀郎先生のご指導により京都大学より工学博士の学位を授与されました。1991年4月に、和田 力先生が津山高専校長として転出された後、教授に昇任させていただきました。私が所属した研究室は、学科改組や大学院重点化に伴い、その名称は、自動制御、機械制御工学、システム制御学、知能機械制御学と変遷しましたが、1968年の生産機械工学科創設時から一貫して「制御」を核としています。

1986年に岡山大学へ着任当時から、研究室の研究内容は流体力学を中心としたフルイデックスから機械システム制御に関する研究に移行しつつありました。私も、津山高専在職時から着手していた空気圧サーボ系の高機能化制御に関する研究を発展させることができました。学部4年生や大学院生の皆さんと一緒に、当時の先端制御理論であった最適制御、適応制御、学習制御、ファジィ制御、ニューラルネットワーク制御などを空気圧サーボ系の制御に導入しました。これら一連の研究は当時の空気圧制御分野において先駆的であり多数の学術論文を発表することができました。その効果もあり、1990年代に入り企業から共同研究の依頼が増え始めました。それらの内容は当研究室が保有する制御技術や空気圧技術の応用に関するもので、その対象は、アクティブサスペンション、空気式精密除振台、コンテナクレーン、空気圧ロボット、空気圧シリンダの精密位置決め等々多岐にわたり、企業の担当者の方や学生さんと時間が経つのを忘れて議論したことを懐かしく思います。

2002年～2003年に大学の地域共同研究センター長を仰せつかり、産学官連携の必要性和有用性を改めて実感しました。その当時、大学のシーズと企業の

ニーズのマッチングが議論の中心であり、両者を取り持つコーディネータが学内外に誕生したのはこのころです。

産学連携の形態は、①ニーズオリエンテッド型、②シーズオリエンテッド型に大別できると思います。大学の研究者としては、②の形態において、自身の研究シーズが社会のニーズに適合し、さらに新たなニーズを創生することができれば大きな喜びです。

私の研究室では、このような観点から、2003年頃より空気圧ゴム人工筋を用いた福祉介護ロボットの研究開発に着手しました。研究シーズは私たちの研究室にあり、高齢社会に向かう中で社会の巨大なニーズを感じました。②の形態を実施する場合、論文発表だけでは実用化は困難であると判断し、産学官連携、ならびに研究内容の性格上、医工連携による研究体制を構築しました。2007年～2008年に、国(経済産業省)の支援を受けて産学官連携・医工連携体制により福祉介護ロボットの研究プロジェクトを推進しました。現在も、その一部は形を変えて継続しており、岡山大学病院との連携によるリハビリ機器の実証試験や地域企業と連携したパワーアシストグローブの商品化など、徐々に研究成果が具現化しつつあります。しかし、2003年に描いた夢の実現に向けてわずか一步を踏み出したに過ぎません。

2013年3月末に大学院自然科学研究科長の任が終わり、定年退職までの2年間を上記の夢の実現に向けて研究活動に専念したいと思っていましたが、予期せぬことに、2013年4月より津山高専校長に就任することになりました。幸い、津山高専へ着任後もこれまでの産学官連携・医工連携研究を継続し、月に何回か岡山大学へ戻っています。今後、できれば、私の勤務地である県北地域においても、このような研究体制を構築したいと考えています。

以上、岡山大学へ在職した27年間における研究活動への取組みについて紹介させていただきました。研究活動を通して多くの人に出会い議論できたこと。また研究課題を共有した研究室のスタッフや学生さんと楽しい時間を過ごせたこと等々、懐かしい思い出であります。工学部の皆様には27年間の長きにわたり大変ありがとうございました。また、本会報への寄稿の機会をいただきました代表幹事の酒井貴志先生のご配慮に心より感謝申し上げます。今後の工学部ならびに工学部同窓会のますますのご発展と皆様のご活躍を心よりお祈りいたします。ありがとうございました。(平成25年6月1日)

学 科 近 況

化学生命系学科 (旧物質応用化学科・旧生物機能工学科) の近況報告

2013年度化学生命系学科・学科長
生命工学コース・コース長
今村 維克

同窓生並びに旧教職員の皆様には、その後お変わり無くお過ごしのこととお慶び申し上げます。既にご存知とは存じますが、平成23年4月より生物機能工学科と物質応用工学科は、改組により化学生命系学科となりました。この改組に伴い大きく変わった点について、近況報告を兼ねてご報告させていただきます。

まず、カリキュラムが大きく変わりました。1年生のうち英語・数学などの工学部の共通基礎科目を中心に履修します。クラス分けも学科単位でなく、異なる目的や価値観を持った学生間の“反応”を意図して、他学科の学生との混成です。2年生から主に履修する専門科目は、生化学、物理化学、有機化学、無機化学の四つを軸としており、これまで通り、幅広い専門分野の素養を育成できればと考えています。二年生の後期からは、目的進路・希望に応じて、履修メニューが3つのコース、すなわち、合成化学コース、材料プロセスコース、生命工学コースに分かれます。なお、旧二学科のカリキュラムをすり合わせる過程で、多くの科目の内容が刷新されました。同窓生の皆さんが当時履修した科目がどのように変わったか、比較頂ける機会をいつか持てればと考えております。

今回の改組を跨ぐ5年間で最も大きく変わったのは、学科を構成するメンバーかも知れません。旧物質応用化学科では、平成22年3月に田中秀雄教授(分子変換化学)、平成24年3月には酒井貴志教授(合成有機化学)、今年3月には高田潤教授(無機材料学)が退官されました。一方、平成24年4月に小

野努教授(界面プロセス工学、←環境生命科学研究科)が着任され、平成24年8月には依馬正准教授(合成有機化学)、本年4月には藤井達生准教授が教授に昇任されました。また、平成23年3月には武藤明德准教授(触媒機能化学、→大阪府立大学)、平成24年3月には、國信洋一郎助教(有機金属化学、→東京大学)、同年4月には是永敏伸助教(合成有機化学、→岩手大学)が転出され、平成22年10月には寺西貴志助教(無機物性化学、←東京工業大学)、平成24年10月には村井征史助教(有機金属化学、←UCサンタバーバラ)、本年4月には前田千尋助教(合成有機化学、←慶応義塾大)が着任されました。平成24年4月には内田哲也講師(高分子材料学)、本年4月には光藤耕一助教(合成プロセス化学)が准教授に昇任されました。

旧生物機能工学科では、平成22年3月に穴戸昌彦教授(生体機能情報設計学)、平成23年3月には虎谷哲夫教授(酵素機能設計学)、中西一弘教授(生物反応機能設計学)、平成24年3月には酒井裕教授(遺伝子機能設計学)、大森斉教授(細胞機能設計学)、山田秀徳教授(蛋白質機能設計学)が退官されました。そして、本年3月には尾坂明義教授(医用複合材料設計学)が退官され、旧生物機能工学科の創立期からおられた教授陣が全員退官されました。本年度7月現在は、妹尾昌治教授(ナノバイオシステム分子設計学)、大槻高史教授(生体機能情報設計学、H22年6月昇任)、世良貴史教授(酵素機能設計学、H23年5月着任)、私、今村(バイオプロセス工学、H23年6月昇任)、徳光浩教授(細胞機能設計学、H24年8月着任)、坂倉彰(生物有機化学、H24年9月着任)および早川聡教授(医用複合材料設計学、本年4月昇任)が第二世代を担っております。また、平成23年11月には瀧真清助教(生体機能情報設計学、→電気通信大)、平成24年3月には北松瑞樹助教(生体機能情報設計学、→近畿大)、同年8月には城崎由紀助教(医用複合材料設計学、→九州工業

大)が転出されました。一方、平成22年9月には水谷昭文助教(ナノバイオシステム分子設計学、←名古屋大)、平成23年6月には佐藤あやの准教授(オルガネラシステム工学、←異分野融合先端研究コア)、平成24年4月には石田尚之准教授(バイオプロセス工学、←産業技術総合研)、同年8月には渡邊和則助教(生体機能情報設計学、←東京大)、本年4月には増田潤子助教(ウーマンテニュアトラック教員、←理研)が着任されました。

このように本学科は、カリキュラムもメンバーも刷新されましたが、根底にある理念や雰囲気は受け継がれていると思います。現在、本学ではホームカミングデイなど、卒業生を対象としたイベントも企画されておりますので、そのような機会にでも本学科にお立ち寄り頂き、受け継がれた部分を懐古されるとともに、新しくなった部分についてご意見等頂ければ幸いに存じます。

余談ですが、学内での喫煙事情も、ここ数年で大きく変わりました。現在、工学部周辺で喫煙ができる区域は二箇所しかなく、その二箇所も今年度一杯で廃止される予定です。本学にお越しいただく際(もちろん、喫煙される方だけですが)、この点、ご留意頂きますようお願い申し上げます。

機械システム系学科 システム工学コースの近況

機械システム系学科 2013年度学科長
村田 厚生

同窓会の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。システム工学科は、平成8年4月の設立以来、本年度で18年の学科としての歴史に幕を閉じ、来年度(2014年度)から1-4年生までの全ての学部学生がシステム工学科ではなく、機械システム系学科システム工学コースの所属になります(ただし、留年、休学を経験した一部のシステム工学科学生は在籍しています)。この18年間で1164名の学士、633名の修士、75名の博士が巣立っていきまし

た。大学院博士前期課程、博士後期課程に関しては、知能機械システム学講座として、旧来とは変わらない体制で運営されています。システム工学科は機械システム系学科システム工学コースとして再編されましたが、従来からの中心的なテーマである「人間と機械の調和」を理念として、8研究室がアクティブに教育・研究活動に取り組んでいます。近年では、大学院の学生が海外の国際会議で研究成果を発表する機会も増えてきています。

旧システム工学科の教員は、機械システム系学科システム工学コースの教員として、引き続き、1学年で約80名の学部学生の教育に取り組んでいます。また、当学科の事務室、学生実験室、3研究室(高度システム安全学、知能システム組織学、知能機械制御学)が入居する工学部5号館が2013年4月から耐震改修工事に入り、エレベータが装備された新しい4階建ての建物として、2013年11月に生まれ変わる予定です。

機械システム系学科システム工学コース(知能機械システム学講座)は、平成25年4月1日現在で、教授7名、准教授4名、講師4名、助教5名の計20名と技術専門職員2名、事務員補佐1名で構成されています。学科に関する人事異動は以下の通りです。

【退職・転出】宮崎茂次教授(平成23年3月)、大久保寛基助教(平成24年3月、現在、東京都市大学准教授)、宗澤良臣講師(平成25年3月、現在、広島工業大学准教授)、則次俊郎教授(平成25年3月、現在、津山工業高等専門学校校長)。

【着任】有菌郁生教授(平成24年10月)、脇元修一准教授(平成25年4月)、杉原太郎助教(平成25年4月)。

機械システム系学科システム工学コース(知能機械システム学講座)の教職員一同、学生・院生のより実践的な教育および時代を先取りする最先端の研究にチャレンジし続けていきたいと思っています。同窓会会員の皆様の今後の益々のご支援をお願い申し上げますとともに、皆様のご健康、ご多幸、ご活躍を祈念しております。同窓生の皆様におかれましては、どうかお気軽に、出身研究室をお訪ね下さい。

職 場 紹 介

倉敷化工(株) 産業機器事業部 開発部
開発課 建築防振チーム

寺内 大地 (機械工学科卒)



私が勤めています倉敷化工株式会社は二つの事業部があります。

一つは自動車部品事業部で、タイヤを除くほとんどの自動車用ゴム部品を製造しています。とりわけ

エンジンマウントや足回りのパーツについては、防振ゴムメーカーとして培ってきたノウハウをベースに、自動車メーカーと協力の上、独自の技術を駆使して防振システムを設計開発しています。車の走行安定性・居住性・防音性をより高め、我が国の基幹産業である自動車の品質向上に貢献しています。

もう一つの事業部である産業機器事業部では、「震度7からナノメートルまで」を合言葉に、安全で快適な環境の創造を支えています。具体的には、産業機械の防振・除振やビルの耐震・免震など幅広い分野で、信頼性の高い技術を提供しています。

私は、産業機器事業部の開発課に所属していますが、開発課は3つのチームから成っています。産業防振チームでは、様々な目的と用途を担って、日々生産される機械・機器等を対象とした製品です。機械や機器は、使用される場において快適性を損なうことは許されません。振動と衝撃を制御し、品質の向上をサポートする防振技術の結晶が最適設計への選択自由度を高めています。

精密除振チームでは、超微細技術の発展により、人体では全く感じる事の出来ない極めて微小な床からの振動が実験・研究・加工の場に悪影響を及ぼします。これらの外乱から守るには要求レベルにふさわしい除振技術が必要です。また、振動以外の外乱要因である「音」、「電磁波」に対してもバリアー技術の研鑽を続け「IT」、「遺伝子」、「光」等の

発展に貢献しています。

私が所属している建築防振チームでは、快適さを提供するためにビル内部に設置された様々な設備機器と装置を対象とした製品を取り扱っています。それらから発生する振動の伝達を最小限に抑えて快適空間を創造する防振機器と技術が最適設計と施工品質を高めています。建築防振チームでは様々な製品を取り扱っていますが、私は主に防振台とフレキという製品の設計・開発業務を担当しています。防振台は建物の空調機器の振動による固体伝搬騒音の発生を防止する装置です。エアコンやポンプ、ファン等に設置して防振します。耐震対策、防錆対策にも配慮し、安全性と耐久性を確認しています。防振台は搭載する機器の荷重を支持するための上架台、機器の振動を吸収するアイソレーター、地震時に機器が転倒することを防ぐ耐震ストッパー、基礎と固定するための下架台で構成されています。搭載される機器の外形寸法や重量、脚部形状により適切な上下鋼材を選定し、客先の要求仕様や機器が設置される下階の用途に合わせたアイソレーターの数や種類を選定し、必要な耐震強度を満足するストッパーに設計しています。

フレキは配管系統に接続する製品で、配管系を通じての振動伝達防止及び音響放射の防止に大きな効果があります。

また最近増えているのは、免震関係の製品です。2年前に東北での震災があって以来、地震に「耐える」構造から「守る」構造へのシフトが進んでいます。上下方向には硬く、水平方向には柔らかい免震積層ゴムで支持された建物は、あたかも地盤と建物が魔法の水の上に乗ったような状態となり、地震の水平方向の強い力と大きな動きに対しては縁が切れたように建物はゆっくりと動きます。そのため建物と建物内の人と物への被害を最小限にとどめることが可能です。そして併用する鉛ダンパー、鋼棒ダンパーにより地震時の速やかな揺れの収束と元の位置への復帰機能は言うまでもなく、強風による揺れの減衰にも効果を発揮します。さらに免震フレキが地

震時の免震建物のゆっくりとした動きに追随し、水道・ガス配管等のライフラインを破損被害から安全に守ります。

このように弊社では様々な製品を取り扱っていますが、私は入社してすぐに開発製品を担当させていただくこととなり、様々な苦勞をしましたが、先輩方の親身なご指導により、設計から性能評価、客先評価から発売に至るまでの一連の開発業務をこなすことが出来ました。まだまだ力不足ではありますが、「ひとのためになる製品」をもっと数多く世に出すことにより、人々の快適な住生活のために寄与したいと考えております。

倉敷化工株式会社
技術部第二技術課

山川 哲行



私の勤務する倉敷化工株式会社は、ゴム弾性を応用した振動防止技術を柱として1964年に設立された防振ゴムメーカーです。

以来、今日まで我が国の基幹産業である自動車産業においては、自主技術による高品質な部品の供給に努め、エンジンマウントやホース、足まわり部品とともにタイヤを除くほとんどの自動車用ゴム部品を製造しています。

また、1970年より、一般産業用の防振・防音関連機器の事業を展開しています。「震度7からナノメートルまで」のキャッチフレーズのもと、安全で快適な環境の創造を支えており、免震ビルシステムといった地震の揺れを軽減する免震ゴムも製造しています。

私は2005年に入社して以来、自動車部品のホースの設計を担当しています。お客様の要求する仕様のホースを設計し、図面化する仕事です。具体的には、お客様の要求する仕様に対して打合せを行い、お客様にメリットがある仕様を提案しながら仕様を決定し、ホースを設計します。出来上

がったホースを評価のうえ試作納入し、試作車へ搭載し実車評価を行います。そして、問題ないことを確認のうえ量産仕様を決定します。量産車へ搭載したホースを実車評価し問題ないことを確認できると設計の業務は完了です。

また、車両でのホースの使用環境の変化や、法規制の変化への対応のため、お客様へ新製品の提案をすべく新規材質や構造を用いたホースの開発も行っています。使用環境の変化例としては、ホースの内部流体の変更や、車両の新機構による内部流体、温度、圧力の変化等があります。法規制の変化例としては、一定条件下での車両からの炭化水素量の排出を抑制するために、燃料ホースの燃料透過性の強化等があります。開発は、ターゲット車種への搭載を狙い、車両の開発日程の制約からスピードを要することと、試作と評価の繰り返しで、工数が大きくなることもあるので大変なのですが、開発完了したときの達成感は大いなものがあります。

在学中は、化学科でしたので現在の設計の業務には、あまり馴染みがなく、配属当初は戸惑うことが多々あり苦勞したことを覚えています。しかし、業務遂行に不可欠な知識の吸収や関連する知識の吸収に務めていき、担当する部品が拡大するにつれ、知識が吸収できていることを実感し自然と楽しみながら従事するようになりました。今では、関連する知識のみならず、他分野の知識の吸収にも務めています。



ホームカミングデイ

ホームカミングデイでの工学部同窓会の取り組みについて

岡山大学は、同窓生を大学に招待し、大学の現状を広く紹介することを目的として、昨年引き続き、本年10月19日(土)に「ホームカミングデイ2013」を計画しています。この機会に、工学部同窓会では本年は以下のとおり、「工学部同窓会報告会」と「懇親会」を計画しています。工学部同窓会の企画の詳細は、8月上旬に、同窓会HPに掲載される予定です。工学部同窓会は、在学生、卒業生、および現旧教員を会員としています。この機会に、皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。(工学部同窓会代表酒井貴志)

●工学部同窓会・報告会・懇親会

日時：2013年10月19日(土)
15:30(受付開始)
場所：岡山ロイヤルホテル(岡山市北区絵図町;TEL:086-255-1111)
懇親会会費：5000円(当日会場にてお支払い下さい)

●工学部同窓会報告会(16:00-16:45)

- 1) 工学部同窓会活動の概要報告
- 2) 岡山大学全学同窓会設立に関する報告(内容の詳細は全学HP参照)
- 3) 意見交換

●工学部同窓会懇親会(17:00-19:00)

なお、準備の都合上、懇親会参加希望者は10月10日(木)までに同窓会事務局(ofst@okayama-u.ac.jp)まで、学科、卒業年、氏名等をご連絡下さい。

工学部学科同窓会の取り組みについて

●電気電子系、通信系同窓会合同総会

時間:14時30分～14時50分 場所:工学部第2講義室

2011年に学科再編により4系学科体制になりました。これに伴い、電気電子系と通信系の同窓会は、両同窓会を統合し、旧電気工学科、旧電子工学科、旧電気電子工学科、旧通信ネットワーク工学科、ならびに、電気通信系学科の卒業生が属する電気通信系同窓会を発足させ、今後の運営を行いたいと考えています。

ホームカミングデイ当日、この議案を採決するための合同総会を開催致します。欠席の場合、当日の議長に全権委任となります。合同総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合、議長の決するところと致します。

本件に関するご質問やご意見は、佐藤(ec-alumni@dev.cne.okayama-u.ac.jp)までお知らせ下さい。

ホームカミングデイでの工学部の取り組みについて

同窓生、一般参加者を対象として、午前10時から午後3時まで、工学部の各学科において、以下のようなイベントが企画されています。また、今後、さらに増えるかもしれませんので、9月頃に、工学部および各学科のホームページをチェックしていただけたらと思います(工学部副学部長横平徳美)。

■機械システム系学科(旧機械系学科)

ホームカミングデイにお越しいただいた同窓生の方を対象とした昼食会ならびに講演会を企画しています。講演会では、現在の機械工学コース(機械システム系学科)の概要を理解いただくような講演を行う予定です。また、退官された名誉教授の方々にも参加依頼中です。是非、ご参加いただき、現在の機械系学科の状況を把握いただき、今後の取り組み等に有益なご意見をいただければ大変助かります。企画の詳細は、機械工学コースのWebサイト(<http://www.mech.okayama-u.ac.jp>)でも公開いたしますので、ご確認ください。

■ 機械システム系学科 (旧システム工学科)

旧システム工学科では、当日10時から15時の間、以下の研究室を公開いたします。同窓生の皆様におかれましては出身研究室をお尋ねいただき、先生方や後輩の学生さんと交流いただければ幸いです。

- ・ 適応学習システム制御学 (見浪教授、松野講師、矢納助教)
- ・ システム構成学 (神田准教授)
- ・ 機械インターフェース学 (五福教授、亀川講師、杉原助教)
- ・ メカトロニクスシステム学 (渡辺教授、前山講師、永井助教)

■ 電気通信系学科 (旧電気工学科、旧電子工学科、旧電気電子工学科、旧通信ネットワーク工学科)

電気通信系学科では以下のイベントを企画しています。追加情報を学科ホームページ (http://www.eng.okayama-u.ac.jp/eng_elec/html/) で適宜アナウンスしますので、最新情報はこちらをご参照ください。

■ 昼食会

時間：12時～13時30分 (予定)

内容：昨年は、3名の名誉教授の先生方 (岡本卓爾先生、古賀隆治先生、森川良孝先生) をお招きして昼食会を開催しました。30名を超える参加者があり、盛況に終えることができました。今年も昨年に引き続き昼食会を開催します。奮ってご参加ください。昼食会に関するお問い合わせ、お申し込みは豊田 (ec-alumni@dev.cne.okayama-u.ac.jp) までご連絡ください。

■ 研究紹介

ホームカミングデイ当日、電気・情報関連学会中国支部連合大会が岡山大学津島キャンパスで開催されます。大会では、電気通信系学科の各研究室の最新の研究発表を行いますので、是非ご聴講ください。参加費は無料です。講演会場には教員がおりますので、お時間の許す限りご歓談ください。

■ 情報系学科

情報系学科では以下のイベントを企画しています。最新情報は学科ホームページをご確認下さい。

10：00～12：00 研究室公開 (各研究室にて)

最近の研究室の活動をご覧頂くとともに、OBの皆様の近況などもお聞かせ下さい。昔話に花を咲かせるのも良いでしょう。お気軽にお越しください。当日は下記の教員が皆様をお待ちしております。

(50音順)：阿部教授、太田教授、尺長教授、高橋教授、乃村准教授、村上准教授、山内准教授、神保講師、竹内講師、後藤助教、笹倉助教、新妻助教、原助教、右田助教、渡邊助教

13：00～15：00 OB、現役生、教員の交流イベント (工学部4号館4F 14講義室)

OBの方をご招待して業務に関する技術動向をお話し頂き、教員からは最近の学科の話題を提供致します。また、2つの講演内容を踏まえて、学生を交えてパネルディスカッションを行います。是非お越下さい。

■ 化学生命系学科

(旧工業化学科、旧合成化学科、旧精密応用化学科、旧物質応用化学科)

(旧生物応用工学科、旧生体機能応用工学科、旧生物機能工学科)

当学科では、

午前：卒業生による講演会

お昼：名誉教授を囲んでの「ランチオンパーティー」

午後：研究室開放 (工学部1号館および6号館)

を予定しております。講演者やご出席いただける名誉教授の先生など、詳細な情報は学科ホームページにてお知らせいたします。

詳細は、下記HPをご参照下さい。

岡山大学工学部同窓会HP：<http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.htm>

岡山大学工学部HP：<http://www.eng.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学ホームカミングデイHP：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/alumni/homecoming2013.html>

工学部同窓会総会、懇親会報告

平成24年10月20日(土)に、「岡山大学ホームカミングディ」が実施され多くの卒業生が参加しました。工学部同窓会ではこの機会に、「工学部同窓会総会」と続いた「懇親会(ウエルカムパーティー)」を行いました。総会では工学部長(代理副学部長)横平徳美教授、自然科学研究科長 則次俊郎教授のご挨拶と説明や各学科同窓会の活動等が報告・議論されました。それらの概要を以下に紹介します。

工学部同窓会総会

工学部1番教室 15:30-17:00



学科同窓会活動報告(旧学科単位)

2012年度の機械系同窓会活動

- ・同窓会入会案内の作成とその促進
- ・卒業生連絡先の集計と管理
 - > 2011年度より機械系による独自のデータベースを構築開始
- ・各種活動の支援や後援
 - > 学生支援室へ新聞ラックの寄贈
 - > 機械系エンジニアの歩き方への後援
 - > 2010年度末より機械系による独自の同窓会活動助成システムを新設
- ・研究室単位を基本としたOB・OG会の開催



「機械系エンジニアの歩き方」の後援

- ・機械系卒業生が集い、在校生へのアドバイスをかねて現在編めている企業を紹介
- ・就職活動が本格化する前の3年生後期(1月下旬)に開催
- ・懇親会も同時開催することで、相互交流の機会アップ
- ・卒業生のリクルート活動の効率化と在校生への就職活動支援

年次	開催日	会場
平成19年度	100社	05日×2日(懇親会)
平成20年度	91社	05日×2日(懇親会)
平成21年度	88社	1日(懇親会)
平成22年度	97社	1日(懇親会)
平成23年度	101社	1日(懇親会)
平成24年度	82社	1日(懇親会)

平成24年度の開催日:平成25年1月18日(土)、場所:岡山国際交流センター



機械系同窓会による同窓会活動助成制度

趣意
同窓会活動を活性化するため、機械系同窓会会長の積極的な指導により、機械系同窓会、同窓会事務局の両方を支援を行うこと。

対象
同窓会100名以上が参加の場合5万円、100名未満50万円未満が2万円、50名未満の場合は1万円(2万円、30名未満は支援無し)機械系以外の同窓生が参加しても良いが、同窓会事務局を主眼に開催する。

活動助成方法
事前に計画書など同窓会事務局に送付することで同窓会事務局申請、申請書、同窓会事務局に参加者名簿などとともに正式申請を同窓会事務局に行う。

同窓会活動助成金の申請時期
毎年12月15日までに申請書を送付することとするが、事後申請でも受け付ける。ただし、開催の1ヶ月以上経過後のものも支給しない。

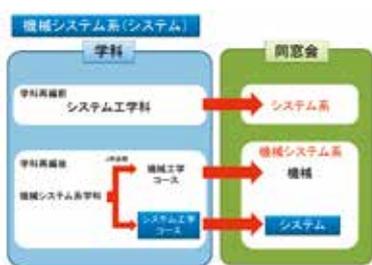
同窓会活動助成金の活用
助成後はスタッフ労賃など費財とともに、終了報告書と同窓会事務局へ送付に際する。助成金の不足分は同窓会事務局の了承を得て参加費(参加費不参加費)のメニューによる募集活動等に充て、今後同窓会活動に関するメニューが配付の基礎となる。



島原太祐之先生 退職記念祝賀会



半野義幸先生 退職記念祝賀会



電気電子工学科
同窓会活動報告
幹事 佐藤 稔

- 活動内容**
補助事業が中心
- ・電気電子工学科への補助
 - 日本経済新聞の購読料
 - ・同窓会や同期会の開催補助
 - 一定人数以上の同窓会員が出席する会に、申請により補助金を支給

同窓会開催補助金
補助実績

- 平成22年度: 3件
- 平成23年度: 2件
- 平成24年度: 1件, 予定3件

詳しくは工学部同窓会のウェブページにて

通信ネットワーク工学科同窓会活動報告 (1/3)

卒業生との就職意見交換会(1/2)

- 開催目的
 - 学生の就職活動に対する意識喚起や将来の自画像の明確化を促す。
 - 通常の会社説明会との差別化を図りつつ、就職活動や就職後の業務について卒業生の視点から情報を得る。
- 講師
 - それぞれの立場で活躍中の入社後5年目の卒業生(同期生)
- 開催実績
 - 2010年度に第1回を開催し、これまで3回実施



通信ネットワーク工学科同窓会活動報告 (2/3)

卒業生との就職意見交換会(2/2)

第1回: 2011年1月14日(金)
講師: 卒業生4名(1期生), 出席者: 43名

第2回: 2011年12月22日(金)
講師: 卒業生4名(2期生), 出席者: 21名

第3回: 2013年1月18日(金)
講師: 卒業生10名(3期生8名, 4期生1名, 6期生1名), 出席者: 23名

第3回アンケート結果(抜粋)

聞きたい話題(複数可)	15
自身の業界	9
就職した企業	10
学生時代	14
就職の経験	1
学生の将来	1
就職の文化	11
就職した学校	2
学生エンジニア	2

通信ネットワーク工学科同窓会活動報告 (3/3)

通信ネットワーク工学科同窓会昼食会 in 岡山大学ホームカミングデイ

日時: 10月20日(土)13時~
会場: 工学部3号館E304室

- 岡本卓爾名誉教授, 古賀隆治名誉教授, 森川良孝名誉教授をお招きし、近況報告および懇親を兼ねた昼食会を開催しました。
- 遠くは東京から20名の卒業生が駆けつけ、30余名の参加者で短い時間ではありましたが、旧交をふかめることができました。

情報工学科活動報告

幹事 後藤佑介

工学部同窓会(情報系学科)活動報告

幹事: 後藤佑介

■活動報告

- 工学部同窓会入会アナウンス
新入生(4月), および卒業生, 修了生(12月)
- 「OB, 現役生, 教員の交流イベント」(10/20)
情報工学科OBによる講演会
情報系学科長とOBによるディスカッション

■今後の予定

- 工学部同窓会ホームページ内コンテンツの充実
- 工学部ホームページ内コンテンツの充実
- 工学部同窓会総会
- 工学部同窓会懇親会(ウエルカムパーティー)

■「京」見学会を実施(2011年10月13日)

- 当時、世界最高速コンピュータ(2012年6月まで、現在第2位)
- 情報工学科3年生の授業の一環で実施
- (参考) http://www.eng.okayama-u.ac.jp/eng_6.html?prn=na/na/na_11207.html
- 2012年:鳥居原亮への見学会を予定(10月)





計算科学研究機構 「京」世界の最速
(理化学研究所, 神戸)
ラックの展示

化学系同窓会(工化会)活動報告

004. 03. 20 報告書 幹事(学内): 内田 登志

役員

- 会長 橋本 清介 (昭和54年): (平成24年度から)
- 前会長 後野 顯康 (昭和41年): (平成13年度から平成23年度)

活動

- 新しい世代に期待する化学セミナー(講演会, 学生との懇話会)
- 第1回 平成18年1月17日(火) 講演会12:00~17:15 懇話会18:00~20:30
- 第2回 平成18年1月23日(水) 講演会13:00~17:30 懇話会17:30~19:30
- 第3回 平成20年1月17日(水) 講演会12:00~17:15 懇話会17:30~19:00
- 第4回 平成20年12月19日(土) 講演会13:00~17:15 懇話会18:00~19:00
- 第5回 平成22年2月19日(月) 講演会12:40~16:30 懇話会16:00~17:30
- 第6回 平成23年2月1日(火) 講演会12:20~17:30 懇話会17:30~19:00
- 第7回 平成24年2月1日(火) 講演会12:30~16:30 懇話会16:00~17:30

・卒業記念集合写真の撮影と配布(平成21年度から実施)

第4回 平成23年2月1日(火) 岡山大学国際青年社会交流センターで実施 参加者20人以上



活動

・卒業記念集合写真(学生と職員全員)の撮影と配布(平成21年度より開始)



生物情報工学科

最先端最先鋭の生物利用バイオテクノロジーを駆使し、生物学的マテリアル開発事業に取組む産学連携・研究推進を推進しています。



bioinformatics... Biotechnology

平成9年3月 生物情報工学科スタッフ記念写真




懇親会 (ウエルカムパーティー) 岡山大学ピーチユニオン 17:30-19:00



[新任教員の紹介]

- 平成24年8月1日付け就任
 - ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
香川大学医学部 准教授
教授 徳光 浩
- 平成24年8月16日付け就任
 - ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
東京大学アイソトープ総合センター 特任助教
助教 渡邊 和 則
- 平成24年9月1日付け就任
 - ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
名古屋大学エコトピア科学研究所 准教授
教授 坂倉 彰
 - ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
東北大学大学院工学研究科 助教
准教授 河内 俊 憲
 - ・大学院自然科学研究科 (情報系学科)
奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 助教
助教 原 直
- 平成24年10月1日付け就任
 - ・大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)
名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授
教授 林 靖 彦
 - ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
日本学術振興会特別研究員
助教 村井 征 史
- 平成25年4月1日付け就任
 - ・大学院自然科学研究科 (情報系学科)
九州大学大学院システム情報科学研究院 准教授
教授 高橋 規 一
 - ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
岡山大学異分野融合先端研究コア 准教授 (特任)
准教授 脇元 修 一
 - ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 助教
北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 助教
助教 杉原 太 郎
 - ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
慶應義塾大学理工学部応用化学科 助教
助教 前田 千 尋
- 平成25年5月1日付け就任
 - ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
静岡医療科学専門学校臨床工学科 常勤講師
助教 佐野 吉 彦

[昇任教員の紹介]

- 平成24年8月1日付け昇任
 - ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
大学院自然科学研究科 (化学生命系学科) 准教授
教授 依馬 正
- 平成25年4月1日付け昇任
 - ・大学院自然科学研究科 (情報系学科)
大学院自然科学研究科 (情報系学科) 准教授
教授 太田 学
 - ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
大学院自然科学研究科 (化学生命系学科) 准教授
教授 藤井 達 生

- ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
大学院自然科学研究科 (化学生命系学科) 准教授
教授 早川 聡
- ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
大学院自然科学研究科 (機械システム系学科) 助教
准教授 岡本 康 寛
- ・大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)
大学院自然科学研究科 (電気通信系学科) 助教
准教授 藤森 和 博
- ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
大学院自然科学研究科 (化学生命系学科) 助教
准教授 光藤 耕 一

[定年、転出、退職教職員の紹介]

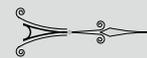
- 平成24年8月31日付退職
 - ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
→九州工業大学若手研究者フロンティア研究アカデミー 准教授
助教 城崎 由 紀
- 平成25年3月31日付け定年退職
 - ・大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)
→岡山大学特命教授 (研究)
教授 奈良 重 俊
 - ・大学院自然科学研究科 (情報系学科)
→岡山大学特命教授 (研究)
教授 金谷 健 一
 - ・大学院自然科学研究科 (情報系学科)
→岡山大学非常勤講師
教授 山崎 進
 - ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
→岡山大学大学院自然科学研究科教授 (特任)
教授 高田 潤
 - ・大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)
→岡山大学特命教授 (研究)
教授 尾坂 明 義
 - ・創造工学センター技術支援部門
→再雇用 技術長 竹内 英 人
 - ・創造工学センター技術支援部門
→再雇用 副技術長 高丸 厚 子
- 平成25年3月31日付退職
 - ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
→津山工業高等専門学校 校長
教授 則次 俊 郎
 - ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
→広島工業大学工学部機械システム工学科 准教授
講師 宗澤 良 臣
 - ・大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)
→岡山理科大学 准教授
助教 關 正 憲
- 平成25年2月26日死亡
 - ・大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)
教授 高橋 則 雄

[叙勲者紹介]

- 平成25年春の叙勲
瑞宝中綬章
・橋本 文雄 名誉教授 (共通講座)



受賞研究の紹介



平成24年度

職名	所属学科等	氏名	受賞名	受賞日
助教	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	大西 孝	マザック財団 マザック高度生産システム研究優秀論文賞	H24.6.1
大学院生	大学院自然科学研究科	本田 卓士	情報処理学会グラフィクスとCAD研究会 優秀研究発表賞	H24.6.22
学部4年	電気電子工学科	日下 鉄也	応用物理学会テラヘルツ電磁波技術研究会学生研究優秀プレゼンテーション賞	H24.8.8
講師	大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)	押木 俊之	平成24年度岡山工学振興会科学技術賞	H24.7.17
教授	大学院自然科学研究科 (情報系学科)	金谷 健一	日本工学教育協会賞・著作賞 理工学教科書著作活動による工学基礎教育への貢献	H24.8.22
大学院生	大学院自然科学研究科	谷本太郁由	誤り検出・訂正ワークショップ (EDCW) 2012「動詞トラック」 最優秀賞	H24.9.4
准教授	大学院自然科学研究科 (情報系学科)	太田 学	〃	〃
講師	大学院自然科学研究科 (情報系学科)	竹内 孔一	〃	〃
教授	大学院自然科学研究科 (情報系学科)	金谷 健一	電子情報通信学会フェローの称号 (内容: コンピュータビジョンの数理的手法の先駆的研究)	H24.9.12
教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	富田 栄二	自動車技術会技術部門貢献賞 (技術会議ガス燃料エンジン部門委員会の活動)	H24.8.24
准教授	大学院自然科学研究科 (情報系学科)	太田 学	Best Paper Award at the Fourth International Conference on Creative Content Technologies (CONTENT 2012)	H24.7.27
教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	多田 直哉	The 7th IMPACT Conference, Outstanding Paper Award	H24.10.26
大学院生	大学院自然科学研究科	高木 竜輝	応用物理学会中国四国支部学術講演会発表奨励賞	H24.11.1
技術専門員	創造工学センター工作センター部門	竹内 英人	第9回切削加工ドリームコンテストアカデミック部門金賞	H24.11.1
技術専門職員	創造工学センター工作センター部門	福本 博世	〃	〃
技術職員	創造工学センター工作センター部門	堀 格郎	〃	〃
准教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	春木 直人	〃	〃
教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	塚本 眞也	〃	〃
工学部長	大学院自然科学研究科 (情報系学科)	谷口 秀夫	〃	〃
技術職員	機械システム系学科機械加工工学研究室	田淵 晃嗣	第9回切削加工ドリームコンテストアカデミック部門技能賞	H24.11.1
助教	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	大西 孝	〃	〃
大学院生	大学院自然科学研究科	磯野 世享	〃	〃
大学院生	大学院自然科学研究科	小谷 拓也	〃	〃
大学院生	大学院自然科学研究科	藤村 涼太	〃	〃
大学院生	大学院自然科学研究科	前田 夕斗	〃	〃
学部4年	機械工学科	村川宗治郎	〃	〃
准教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	大橋 一仁	〃	〃
教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	塚本 眞也	〃	〃
大学院生	大学院自然科学研究科	延永 達哉	JIEP電磁特性技術委員会賞	H24.7.19
大学院生	大学院自然科学研究科	竹嶋 龍	第19回ヤングセラミストミーティング in 中四国 奨励賞	H24.11.17

大学院生	大学院自然科学研究科	松永 拓也	応用物理学会中国四国支部学術講演会発表奨励賞	H24.11.1
大学院生	大学院自然科学研究科	山口 大介	第33回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム 超音波シンポジウム奨励賞	H24.11.14
大学院生	大学院自然科学研究科	川上 佳朗	Development of Micro Sliding Valve for Micro chemical Reactors and Its Application to Micro Beaker Process 19th International Conference on Mechatronics and Machine Vision in Practice (M2VIP 2012) Best Paper in Mechatronics	H24.11.28
大学院生	大学院自然科学研究科	門脇 信傑	〃	〃
准教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	鈴木 康一	〃	〃
名誉教授		阪田 祐作	〃	〃
教授	大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)	船曳 信生	Best Paper Award of International Conference on Education and Information Technology 2012	H24.11.27
大学院生	大学院自然科学研究科	マハムド ファーハン ザヒド	5th Pan-Pacific EMC Joint Meeting Young Scientist Excellent Paper Award	H24.11.29
大学院生	大学院自然科学研究科	木村 敦史 高井 淳生 三角 周平	「第11回 学生によるビジネスアイデア提案コンテスト」(キャンパスベンチャーグランプリ中国) テクノロジー部門優秀賞(エネルギー中国電力賞) テーマ: 収束太陽光照射装置を用いたバードストライク防止策の新提案	H25.1.25
大学院生	大学院自然科学研究科	山口 博暢 森下 真吾 吉田 遊太	「第11回 学生によるビジネスアイデア提案コンテスト」(キャンパスベンチャーグランプリ中国) 特別賞(中国経済産業局長賞) テーマ: データ放送を利用した広告と販売	H25.1.25
大学院生	大学院自然科学研究科	松岡 慧 栗山 和樹 原田 昌宜	「第11回 学生によるビジネスアイデア提案コンテスト」(キャンパスベンチャーグランプリ中国) 奨励賞 テーマ: 形状記憶合金を用いた車内温度の自動制御装置	H25.1.25
大学院生	大学院自然科学研究科	奥野 哲平 池淵 彰 川井 侑哉	「第11回 学生によるビジネスアイデア提案コンテスト」(キャンパスベンチャーグランプリ中国) 佳作 テーマ: ドアノブの自動除菌装置	H25.1.25
助教	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	佐々木大輔	公益社団法人計測自動制御学会 学術奨励賞技術奨励賞	H25.2.22
教授	大学院自然科学研究科 (情報系学科)	金谷 健一	一般社団法人情報処理学会山下記念研究賞	H25.3.6
助教	大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)	五百旗頭健吾	第26回エレクトロニクス実装学会春季講演大会優秀賞	H25.3.14
大学院生	大学院自然科学研究科	矢野 佑典	〃	〃
准教授	大学院自然科学研究科 (電気通信系学科)	豊田 啓孝	〃	〃
大学院生	大学院自然科学研究科	井上 拓真	電子情報通信学会学術奨励賞	H25.3.20
大学院生	大学院自然科学研究科	藤岡 大輔	電子情報通信学会学術奨励賞	H25.3.20
大学院生	大学院自然科学研究科	マワルデイ モハマド	第33回(2012年秋季)応用物理学会講演奨励賞	H25.3.27

平成25年度

教授	大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)	世良 貴史	平成25年度長瀬研究振興賞	H25.4.25
教授	大学院自然科学研究科 (機械システム系学科)	有蘭 育生	公益社団法人日本経営工学会 平成24年度学会賞(学術)	H25.5.18
講師	大学院自然科学研究科 (化学生命系学科)	押木 俊之	第八回村川技術奨励賞	H25.5.22
大学院生	大学院自然科学研究科	鎌田 満	第八回村川技術奨励賞	H25.5.22


学位取得者名簿


授与月日：2012年9月28日

【課程博士】

氏名	論文題目名	専攻分野 の名称	専攻名	講座名	主査教員名
陳 文傑	光トレイルネットワークにおけるトレイル設定方式およびメディアアクセス制御方式に関する研究	工学	産業創成 工学	情報通信 システム学	横平 徳美
江間 晃	遠心法濃縮プラントの廃止に向けた解体前除染技術の開発	工学	産業創成 工学	知能機械 システム学	鈴木 和彦
于 福佳	Control Methods of Robots for Eye-Vergence Visual Servoing and Sensorless Grinding —Proposals of Control law and Stability Analyses by Lyapunov Method— (両眼転導ビジュアルサーボとセンサーレス研削の制御方法 — 制御則の提案とリヤプノフ法による安定性解析—)	工学	産業創成 工学	知能機械 システム学	見浪 護
ZAINAH BINTI MD. ZAIN	Underactuated Control for an Autonomous Underwater Vehicle with Four Thrusters (4つのスラストを持つ自律水中移動体の劣駆動制御)	工学	産業創成 工学	知能機械 システム学	渡邊 桂吾
SAIFUDIN BIN RAZALI	Smoothing Techniques and a Spherical Simplex Unscented Transformation in Solving a SLAM Problem (SLAM問題解法におけるスムージング技法と球状シンプレックス・アンセンテッド変換)	工学	産業創成 工学	知能機械 システム学	渡邊 桂吾
成瀬 文雄	積層セラミックコンデンサブロックの圧縮プロセスにおける変形挙動の研究	工学	産業創成 工学	機械生産 開発学	多田 直哉
劉 植秀	エリスリトール／マンニトール混合潜熱蓄熱材の蓄・放熱挙動に関する研究	工学	産業創成 工学	エネルギー システム学	堀部 明彦
梅 振武	Studies on Development of Benign Technologies for Some Organic Transformations with Organic Catalysts and Synthesis of the Substituted Neocryptolepines as Drug Candidates of Antimalarial Agents (有機触媒による分子変換のための環境技術および抗マラリア活性を持つ医薬候補としての置換ネオクリプトレピンの合成と活性評価に関する研究)	工学	機能分子 化学	医用生命 工学	井口 勉
王 力	Studies on the Mechanism-Inspired Design, Synthesis, and Biological Evaluation of Quinoline-Indole-Assembled Molecules for Drug Candidates (医薬候補の探索を目的とするキノリン-インドール系分子の作用機構に基づく分子設計、合成、および活性評価に関する研究)	工学	機能分子 化学	医用生命 工学	井口 勉
李 傑	Apatite- and Titania-Coated Silica Gel Macrospheres from Water Glass as Protein Adsorbents (水ガラスを原料とするアパタイトおよびチタニア被覆シリカゲルの作成とタンパク質吸着)	学術	機能分子 化学	医用生命 工学	尾坂 明義
金 国良	Study on Cardiomyocyte Differentiation Induced by ECP (好酸球塩基性タンパク質による心筋芽細胞の分化誘導に関する研究)	工学	機能分子 化学	医用生命 工学	妹尾 昌治

授与月日：2012年9月28日

【論文博士】

該当無し

授与月日：2013年3月25日

【課程博士】

氏名	論文題目名	専攻分野 の名称	専攻名	講座名	主査教員名
根角 健太	Proposals of Multiplication and Inversion Methods in Extension Field for Scalable Asymmetric-key and Fast Symmetric-key Cryptosystems (拡張性の有る非対称鍵暗号と高速処理可能な対称鍵暗号のための拡大体での乗算および逆元計算法の提案)	工学	産業創成工学	情報通信システム学	野上 保之
SRITRUSTA SUKARIDHOTO	A Study of Performance Improvement Methods for Real-time Applications in Wireless Mesh Networks (無線メッシュネットワークにおけるリアルタイム通信の性能向上手法に関する研究)	工学	産業創成工学	情報通信システム学	船曳 信生
河邊 盛男	電磁機器の設計支援技術の高機能化に関する研究	工学	産業創成工学	電気電子機能開発学	船曳 繁之
李 向攀	Design of Wearable Power Assist Wear for Low Back Support Using Pneumatic Actuators (空気圧アクチュエータを用いた腰部パワーアシストウェアの開発)	工学	産業創成工学	知能機械システム学	則次 俊郎
加藤 達也	画像に基づくファジィ制御器を用いた移動ロボットの制御	工学	産業創成工学	知能機械システム学	渡邊 桂吾
魯 楠	流動遊離砥粒による加工機構とその応用に関する研究	工学	産業創成工学	機械生産開発学	大橋 一仁
MITHUN KANTI ROY	Investigation of Different Injection Strategies and Local Mixture Concentration for Jet-guided Combustion in a Hydrogen Direct Injection Spark-Ignition Engine (水素直接噴射式火花点火機関におけるジェットガイド方式燃焼のための異なる噴射方法と局所混合気濃度に関する研究)	工学	産業創成工学	エネルギーシステム学	富田 栄二
于 英花	Studies on Visual and Tactile Spatial Cognition using Behavioral Experiment and Functional Magnetic Resonance Imaging (行動実験とfMRIを用いた視覚・触覚の空間認知に関する研究)	工学	産業創成工学	エネルギーシステム学	呉 景龍
SUKMAWATY	A Study of Continuous Sorption and Desorption in Two Connected Fluidized Beds with Organic Sorbent (有機系吸着剤を用いた二槽連結流動層の連続吸脱着に関する研究)	工学	産業創成工学	エネルギーシステム学	堀部 明彦
下山 力生	発熱体の最適配置による自然対流熱伝達促進と流動挙動に関する研究	工学	産業創成工学	エネルギーシステム学	堀部 明彦
辻 広美	古代遺跡出土ベンガラの材料科学的研究	学術	機能分子化学	材料機能化学	高田 潤
原田 達也	変質花崗岩を配合した粘土瓦成形体の変形要因に関する研究	工学	機能分子化学	材料機能化学	高田 潤
中塚 大輔	置換イルメナイト型鉄酸化物 $FeM_xTi_{1-x}O_3$ ($M=Ge, Si, Sn, Zr$)の合成ならびに構造と磁性	工学	機能分子化学	材料機能化学	高田 潤
宮崎 祐樹	Metalloporphyrin Catalysts for Synthesis of Cyclic Carbonate from CO_2 and Epoxide (CO_2 とエポキシドから環状炭酸エステルを合成する金属ポルフィリン触媒)	工学	機能分子化学	物質反応化学	依馬 正

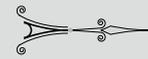
授与月日：2013年3月25日

【論文博士】

氏名	論文題目名	専攻分野 の名称	専攻名	講座名	主査教員名
横山 薫	γ 線計測による放射性廃棄物収納容器中のウラン238の定量評価手法に関する研究	工学	産業創成工学	知能機械システム学	鈴木 和彦



同窓会会計報告 (平成24年度)



一般会計

収支計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 入会金収入 会費収入	3,250,520	3,105,760	144,760	314名 $\left\{ \begin{array}{l} @10,000 \times 1 \\ @9,920 \times 83 \\ @9,880 \times 230 \end{array} \right.$
2. 寄附金収入 寄附金収入	694,000	881,000	△187,000	@1,000 × 881
3. 雑収入 受取利息	100,000	119,780	△19,780	普通、郵貯、有価証券
当期収入合計(A)	4,044,520	4,106,540	△62,020	
前期繰越収支差額	7,509,004	7,509,004	0	
収入合計(B)	11,553,524	11,615,544	△62,020	
II. 支出の部				
1. 事業費	4,171,259	4,044,019	127,240	
通信運搬費	920,500	934,835	△14,335	会報、入会案内外郵送料
会議費	200,000	160,820	39,180	学科連絡委員会、ホームカミングデー
旅費交通費	50,000	52,420	△2,420	関東支部同窓会
印刷製本費	1,410,759	1,361,120	49,639	会報、入会案内、封筒外
消耗品費	10,000	30,934	△20,934	
助成金支出	260,000	192,945	67,055	
同窓会活性化経費	60,000	60,000	0	ホームページ作業料
名簿作成代同窓会負担額	1,250,000	1,250,000	0	
雑費	10,000	945	9,055	
2. 学科事業費	987,000	534,000	453,000	
学科配分会費	987,000	534,000	453,000	178名 @3,000-
3. 管理費	460,000	460,000	0	
業務委託費	360,000	360,000	0	(公財)岡山工学振興会
岡山大学同窓会会費	100,000	100,000	0	岡山大学
当期支出合計(C)	5,618,259	5,038,019	580,240	
当期収支差額(A)-(C)	△1,573,739	△931,479	△642,260	
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,935,265	6,577,525	△642,260	

基金特別会計

収支計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単位：円)

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 雑収入 受取利息	119,548	有価証券
当期収入合計(A)	119,548	
前期繰越収支差額	2,464,281	
収入合計(B)	2,583,829	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	119,548	
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,583,829	

工学部同窓会ホームページ <http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.html>

工学部同窓会ではホームページを通じてみなさまにいろいろな情報をおとどけします。ホームページを充実させるためにみなさまからの情報を募集しています。是非ご協力下さい。

例えばこんな情報を募集しています。

- ・同期会、研究室同窓会、など行事のお知らせ
- ・みなさまの近況
- ・同窓生の方がお持ちのホームページ（リンクさせていただきます）
- ・同窓生による寄稿（エッセイ、旅行記、写真などなんでも構いません）

※なお、情報を提供下さった方には、右写真にあります、「岡山大学グッズ」の中からいずれかを進呈します。

ホームページへのご寄稿、ご要望などはofst@cc.okayama-u.ac.jp宛にお願いします。



同窓会事務局より

同窓会報への寄稿などのお願い

会員の方々の寄稿、意見等をお寄せくださいますようお願いいたします。
 ●職場報告：600～1200字程度 ●会員グループ報告：600～1200字程度 ●最近の研究から：8000字まで（図・表を含む）
 ●会員短信：800字以内（近況、随想、会員や恩師への祝辞、思い出等） ●通信：400字以内

いずれも写真（顔写真あるいは関連写真）を合わせてご提供ください。

なお、いずれの寄稿につきましても、編集幹事一同の判断により、紙面の都合上内容を損なわない範囲で一部を変更、削除させていただくこと、また極端に内容が不都合であるものについては掲載をしないこと、などをさせていただくことがありますので御了承をお願いいたします。

支部活動の助成について

次のとおり支部活動を助成します。幹事、あるいは岡山工学振興会内・岡山大学工学部同窓会(086-255-8311)へ御連絡ください。

- (1) 100人程度を超えるような支部が総会、懇親会等の活動を行う場合に助成する。
- (2) 通信連絡に必要な経費として、小野高速印刷(株)を利用した場合等の実費額と180円/人・回のいずれか安価な額を助成する。
- (3) 懇親会等の会合に要する経費として50,000円/会を助成する。

寄附のお願い

工学部同窓会は、皆様のお力添えに支えられ今日まで活動を行ってまいりました。今後も活発な同窓会活動を継続するためには財務基盤の強化が急務であるため、昨年度に引き続き会員の皆様に寄附のお願いをすることになりました。寄附は一口1,000円からとさせていただきますが、ご都合に応じ何口でも結構でございます。なお、寄附をお寄せ頂いた会員のお名前、卒業学科（専攻）、卒業年度を会報に掲載させていただきます。

会員の皆様におかれましては、寄附の趣旨にご理解を頂き、引き続きご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご寄附は下記宛でお願いいたします

郵便振替01270-4-5233 岡山大学工学部同窓会

*通信欄にはご住所、お名前、電話番号、卒業学科（専攻）、卒業年度、会報への氏名掲載の可否をご記入下さい。

*恐れ入りますが振込手数料はご負担下さい。

編 集 後 記

岡山大学工学部同窓会報第25号をお届けします。

平成25年3月をもちまして退職されました先生方より暖かいお言葉を頂戴いたしました。

また、学科紹介を化学生命系学科と機械システム系学科より、職場紹介を寺内大地様と山川哲行様よりご寄稿いただきました。ご多忙中にもかかわらず、本項へご寄稿いただきました諸先生方、ならびに卒業生の方々には厚く御礼申し上げます。

昨年は、10月20日に岡山大学ホームカミングデイを開催し、多くの卒業生の皆様にご参加いただきました。同窓会総会では、工学部長（代理副学部長）横平徳美教授ならびに自然科学研究科長 則次俊郎教授のご挨拶があり、各学科同窓会の活動等が報告され、これからの工学部のあるべき姿について積極的な議論が行われました。また、ピーチユニオンで行われた懇親会では、教授との会話に花が咲き、卒業生同士の新しい出会いなど、会場ではたくさんの笑顔が生まれました。

平成22年4月より現在の7学科から4学科9コースへ改組され、4年目を迎えました。変革が叫ばれる中、工学部の教育も更に魅力あるものすべく、教職員と学生が一体となって取り組んでおります。また、多様性に富む人材を育てられるようなカリキュラムを目指し、学生にとって魅力があり、社会に必要とされる工学部で有り続けるために努力を続けています。岡山大学工学部同窓会も在校生と同窓生にとって魅力ある存在であるべく、変革と躍進を模索していますので、ご意見を願いますとともに、今後も更なるご支援を賜れるとありがたく存じます。

学内代表幹事・後藤佑介（情報系学科）